

山岳クラブ／ゲーテセンター（ドイツ語 こんにちは）

月報 やまふみ



サンシュユ

No.231 2015年(平成27年)3月1日発行 山踏み

会 長 /MT

事務局長 /TK

ホームページ / <http://guten-nagano.com/>

編 集 /ST TS TT

印 刷 /中央プリント（株）



もくじ

山行報告	1~5
編集後記	6

1月24~25日 長山協主催ウインターミーティング参加&赤岳登山

L :H ・ U本・M下・H岡

24日 美濃戸口 10:00 → 行者小屋 14:00

25日 行者小屋 7:15 → 地蔵尾根 8:45 → 赤岳展望荘 8:55 → 赤岳山頂 10:25 → 阿弥陀岳分岐 11:45 → 行者小屋 12:40 → 赤岳山荘 14:30

今年初めての私の登山は、長山協主催ウインターミーティング参加と赤岳登山でした。

1日目は美濃戸口から行者小屋まで行くだけですゆっくりスタートして、穏やかな天候の中久しぶりに会った仲間と楽しく会話しながら、歩きました。

今回は、長山協主催の講習会には参加せず、私達はフリーで赤岳に登る計画です。

交流会も、同じ趣味を持った者同士和気あいあい楽しい時間を過ごせました。協会の方々から「Hさん、卓ちゃん」と声が掛かる度にHさんの顔の広さに驚き、また、前のクラブのTさんが、指



導員として参加、思わぬ再会に二度驚きました。

2日目は、赤岳登山です。

今日の八ヶ岳の天気も快晴、朝日に照らし出された阿弥陀岳を見上げながら、準備を開始、計画通り地蔵尾根から登り文三郎尾根を下る。小屋でアイゼン装着、バラクラバ、ピッケルもすべての準備をして出発、体感温度も調度良い、シラビソの樹林帯の登りが始まった。新雪の無い登山道は、しっかり踏み固められ登り易い、右手に大きく聳える阿弥陀岳、その後ろに白い頂きの御嶽山から、連なる北アルプスに目を奪われ登りました。樹林帯を抜けると傾斜が増し、雪の付いた鉄の階段、高度感のあるナイフリッジは、気を引き締め丁寧に歩いて通過。地蔵の頭に到着しました。

今日の八ヶ岳の稜線は、風が少ない、360度の眺望を堪能、迫る赤岳を見上げ、綺麗な富士山に見とれました。どうして山から見る富士山はこんなに感劇するのだろうか。

時々吹き抜ける強風もありましたが、始終穏やかな稜線歩きを堪能して赤岳の山頂に向かいました。赤岳への最後の登りは、固くなった斜面に、しっかりアイゼンの歯を当てて登りました。さすが赤岳の山頂は、人でにぎわっている。

下山は、リーダーから細心の注意を促されスタート、私は山頂直下の最初の岩場で足場が見



つからず焦る、また、雪の間から見え隠れしている岩稜帯の鎖にアイゼンの金具を引っ掛けて緊張、でも、ゆっくり降りていたので、落ち着いて外す事ができました。気を引き締め直し下山、結構登って来る人がいて、すれ違いにも気を遣いました。

阿弥陀岳分岐を過ぎた頃から、段々暑くなり途中アウターを脱ぎました。本当に良い天気です。

魚沼から参加した M 下さんの雪上歩行の安定感に感心して、最後に呟いた。「こんなに明るくて真っ青な空を見ることができ

て、幸せ」に同感して、美濃戸口を目指しました。最後に、今回の山行の為に、チェーンを購入した Y 本さんに感謝です。



H岡 記

2月7日(土) 赤禿山スキー(個人山行)

L;M 井、S 木

7:53 山之坊発 — 8:33 大峰峠 — 10:32 山頂 1158m — 11:03 北面 1106m地点登り返し — 11:34 滑降 — 12:15 ナメコ 758m地点 — 13:08 林道 — 13:32 大峰峠 — 13:46 車

元々は前週に予定していた山行だったのだが荒天で中止となり順延となったもの。私は翌8日に佐渡山スキーも予定していたので一度は諦めたのだが、土曜の天気が良いので急きょ参加させてもらった。

まったくこの日は素晴らしい晴天で、途中の白馬も美しかった。平岩から山之坊集落へ車道を上っていくとどんどん積雪が増え、集落はどの家も雪の壁に隠れるほど。

集落除雪終点より峠に向かって登りだす。固い雪の上にふわふわの新雪が乗っていて、これを滑らないのはもったいない気分だ。峠から尾根に取付くとまもなく展望が開け、正面に赤禿山頂、右手には明星山、左手には風吹などの北アルプス、振り返ると雨飾山や海谷の山々。赤禿山は前にも来たが、やっぱり展望は素晴らしい。リーダーは正月にも来たそうで、今回の目的の一つはその時見つけたナメコの採取だそうで、それらしい木を見つける才能はさすがです。でも、今日はフリーズドライ化したものが多く、“ホントになめこ？”と疑念が。水に戻してみないとわからない…。



そんなこんなでMさんにしてはのんびり登ってくれたようで、なんとか楽に山頂まで付いていけました。ラッセルはさほどではなさそうだったので、お任せでした(いつものことですが)。赤禿山の山頂は樹林に覆われ、せつかくの大展望(白馬岳～拇海新道の山々がすべて見えている)が樹林の隙間越しとは惜しい！でも焼山方面や糸魚川の海岸線が良く見えました。

リーダーの今回のもう一つの目的は北斜面の偵察で、とりあえず快適に滑れるところまで滑ってみることに。北北西尾根は、ふかふかのパウダーと私好みの傾斜で極上の滑降でしたが、それは長く続かず、尾根が一旦落ちて少し登り返しが必要な感じになっていたのも、そこで終わりとなりました。まだ50mほどしか下っていなくて残念。この後もそうだけど、地形図に現れない起伏が沢山あるものです。北面は木のない急なバーンで、これはいかにもヤバそう。シールをつけて登り返し始めると一人下りてきて、高浪の池まで下るとのことでした。池はこの斜面のはるか下です。



山頂へ戻り、最初に登った斜面を途中まで滑ります。直下のみ両側が急峻なので慎重に滑り、東側の斜面へ入りました。尾根の北面だったり日蔭もあり、まだパウダーを楽しめます。途中、半分凍ったナメコがたっぷりついた木をみつけて、私も沢山採らせてもらいました。やがて斜面は平らになり杉林となると、またシールをつけて大峰峠まで登り返し、最後の林道の滑りはすっかり重い雪でした。春のような好天とパウダーに恵まれ、楽しいスキーでした。後ほど、リーダーより“間違いなくナメコ”とお墨付きを頂き、心配なく賞味できました。

2月8日(日) 佐渡山(個人山行)

L:U木 SL; Y本 H岡 D原 M島

登山口 8:42-黒姫分岐09:42-佐渡山11:25-黒姫分岐 12:15 -登山口13:54

なぜかインスピレーションで急に思いついてしまいました。2月8日に手塚さんの佐渡山の山スキーに行かれる企画をみて便乗で佐渡山 スノーシュー体験企画した。彼らのトレースをあてにした案だ。ラッセル隊(私を除いて)は強力な4名が参加してくれたのでなんとか登れるかもしれないと密かな希望が湧いた。



元気な M 島さんとはるか遅れていく U 植木



快調に南尾根を登る湯本・檀原さん

駐車場は混んではいたがなんとか駐車できた。小型のバスできているグループもあり結構賑わっているようだ。さて当日は今日の予報は曇り 5人のスノーシュー隊は大橋を出発。まずはスノーシューをつけることから始まる。みんな種類が違っていろいろあるもんだと感心した。D原さんはワカンをつける。見知らぬ20人のバックカントリー隊も同時に出発。ゲーテンの4人の先発のスキー隊のトレースが黒姫分岐から続いている。なななんとぜーんぜん沈まない。リング付のストックは役に立つ。実は暇にまかせて4日前に下見に1400mまで来たがそのときはずぶずぶ沈んだのでこれは結構大変そうだったのだがこれは飯縄の登山道に準じる。もしかしたら登頂できるかも思う。分岐を過ぎて林道の橋をすぐに尾根に入る。左手に1678m峰がそびえている。入口は黄色のテープが大木に巻いてあるので目印になる。南尾根をY本さん先頭で登っていく。それほど沈まないのH岡さんのはスノーシューはずこし大きいので登山靴に合はないのでツボ足でいくことになった。M島さんが背負ってくれた。しばらくしてスノーシューは急登モードに切り替えた。地図にある1673m地点近辺くらいからガスってきてまわりの山が見えなくなったし小雪が



佐渡山三角点での M 島・D 原・Y 本さんと U 木

舞っているが先が見えるので心配はない。1673m付近のやや急登を過ぎると地図とうりに滑らかな登りが続きしだいに風が強くなった道をたどる。飯縄山からの佐渡山の写真をみたとうり右側は雪庇が延々と張っている。GPSをみると確かに頂上1827mあたりにいるがなにも見えない。すぐ吹雪いていて寒かったので、写真をH岡さん撮ってもらいすぐに下山する。屈曲点で間違えて直進しないかと用心をした。屈曲点を過ぎて再び南尾根に乗るとあとはふかふか雪をスノーシューで踏んで楽しんだ。山スキーの新雪をで浮かび上がる感じがして気持ち良かった。大橋に近づくとなんと運よくスキー隊と合流できた。車に乗る準備をしていたらどこかのスノーシュー隊が10人ほど到着した。黒姫に行ったのだろう。このふんどと黒姫もかなりの良い登山道かもしれない。黒姫がこんなに人気があるとは驚いた。帰りはアゼリアで風呂に入った。ご老体の私は迷ったが冬のヒートショックが怖いのでやっぱりやめた。そのかわりにアイスクリームと特製クッキーを喫茶室で堪能した。帰宅後GPSの軌跡をみたら事前のルートとぴったり一致していたのでめずらしいと感心した。ご老体向けの時間配分の企画に参加していただいたメンバーに感謝します。(写真撮影はすべてH岡さんでした)

U木 記

2月15日(日) 蒲原山山スキー (個人山行)

L:T島 M井 S木 H部

7:10 白馬集合 9:45 湯原の登り口出発 11:45 1110m到着 12:00 滑り出し

13:00 湯原の登り口到着

天気予報では、日曜日は雪は止みまあまあの天気のはずでしたが、朝起きると大雪が降っていて、ホントに山行くの?と思ひながら白馬に向かいました。雪のせいで予定より時間がかかって白馬駅に7時ぎりぎりに到着しましたが、まだ誰も来ていません。少しずつ遅れて全員集合し、この雪の中行く?どうする?ラッセル大変だよな?止めよっか、とみなで迷いましたが、湯原の取り付き場所まで行ってみることにしました。湯原に行くまでの道中も所により激しく雪は降り風が吹いています。

湯原の集落に入り急な坂を登って行くと、道が行き止まる少し手前に県外ナンバーの車が数台停まっていた。脇にはスキーで歩いたトレースもあります。こんな天気でも行く人がいるんだ、と皆で感心し、トレースが付いているんだから途中まででも行きましょう!ということになった時、私がブーツを忘れたことに気付き、白馬まで取りに戻ることに。ブーツを取って湯原に戻って来ると、また新たなグループが来ていて、悪天候にもかかわらず、結構な人数が山に入っていました。そんなこんなで歩き出しは遅れて10時前になってしまいました。

新雪が積もっていましたが、重めでそんなに沈む雪ではありません。トレースは急斜面をジグザグに切り返しながらか登っています。雪が降り風も強くて寒そうな空でしたが、気温は高めで汗をかきます。傾斜の緩い斜面に出てとろとろと登って行くと、稜線が近付き、恐ろしいような音を立てて風が稜線を渡っているのが聞こえます。しばらくは風下だったので風を避けて歩けましたが、標高1110m辺りの稜線に出る地点で、風が強くなり頂上に行くのは躊躇されたので登高止め。そこから滑ることにしました。いい雪いい斜面でした。

既に何グループか滑っていたので、斜面は荒らされているかと心配しましたが、ノートラックの滑らかな斜面は残っており、新雪堪能しました。頂上まで行くと広大なオープンバーンがあるとのこ

と。次回はもう少し天気のいい日に頂上まで登って、頂上から気持ち良く滑走したいものです。天気が悪かったので早めに山を下り、ゆっくり昼食と温泉を楽しんで帰途に着きました。

H部 記



編集後記

ついこの間書いたばかりのような気がする後記。さすがにネタがない…。最近 HP にアップした八ヶ岳の写真を見てくれたでしょうか。私達が赤岳に向かって登っていると、向こうから帝国陸軍の服装をした亡霊？に会いました。嫌な顔をされると思われ、景色を撮るかのようにさりげなくカメラを向けたら、ご丁寧に敬礼をしてくれました。最近、八甲田山の映画を見たばかりだったので、吹雪の中に消えちゃいそうな感じがして…どうしてもダブってしまいました。ごめんなさい。

／てら

今年になってバタバタと“バックカントリー”スキーの遭難のニュースが続き、世間的にはすっかり山スキーは流行りもの・悪者にされた感があるこの頃…。やる人が増えてるから事故数も増えてるわけ？ とはいえ身近な山でも起こったことだし、くれぐれも自分たちがニュースにならぬよう、気を引き締めていきましょうね。

／とっこ

名古屋に来てもう 2 か月経ちます。こちらは暖かくて日中は窓を開けている日もあるほど。長野の日々は短かったです。みなさまに温かく接していただき いろいろな山の経験もできてとっても充実したものとなりました。誌面を借りて恐縮ですがありがとうございました。／エリパパ